

謚ありて之を豊國大明神といふ。爰に石田はあまの
成りゆへに近江國を二十萬石の大名とす。しが先
美吉公御逝去の後猶まの心を起し上杉の家臣直江山城
守義隆といふ令を遣ふを企てそと攻む。けり其に
直江山城守羽州米澤より二十万石を引下けり。ゆへに
安武といふ位侍屋の家老の家康より河井保昌といふ
輔直政といふ人斗ふ。きくといふ。

下次右衛門 家上、降参之事

きねの翌日このまのうへを河井市より美谷地郡より
あつとゆいやはは早稲家より下次を参り直江山城まで
散る。あつと古城へ取籠り門を指圖より龍儀は中住
近中けり。はあまを参り多勢かき討取る。さう作され
けり。あつと思ふ。して又宣ひけるは下次を参り。いふ。さ
きより成る。あつと。或る方の言を聞き。あつといふ。御用
の部を國とす。けり。何事。智恵を以て。あつと。いふ。退
けの事。あつといふ。是。さ。然。と。思。ふ。と。あつ。河井守と
いふ。て。は。所。なる。通。信。さ。う。い。ふ。は。美。田。郡。し。る。あ。い。